

(別紙)

○葛飾北斎「富嶽三十六景」

山梨県立博物館所蔵の「富嶽三十六景」は、その良好な品質と保存状態から、新千円札や新パスポートの元絵のひとつとして選定されている日本有数のコレクション。アルステクネが同社の特許技術「三次元質感画像処理技術（DTIP）」を活用し、2018年に山梨県の公認事業として高精細デジタル化を実施。その後 NTT 東日本主催「Digital×北斎」展シリーズの【序章】（2019年11月～2020年2月）、【破章】（2020年12月～2022年7月）、【急章その1】（2023年4月～12月）（いずれも東京・初台のNTTインターコミュニケーション・センター[ICC]にて開催）などで高精細複製画や高精細データを使用して制作したデジタルアプリケーションの展示を行った。

※「Digital×北斎」展シリーズ <https://www.ntt-east.co.jp/art/index.html>

○葛飾北斎 岩松院本堂天井絵「鳳凰図」

葛飾北斎が晩年に小布施の豪農商、高井鴻山に招かれ小布施を訪問し制作した天井絵。間口6.3m、奥行5.5m、21畳分の大きさで北斎最大の肉筆画と言われている。2021年にNTT ArtTechnologyと株式会社アルステクネ（以下、「アルステクネ」）が連携し、アルステクネの特許技術「三次元質感画像処理技術（DTIP）」を活用して高精細デジタル化を実施。2022年6月～7月にNTT 東日本主催「Digital×北斎」特別展をICCで開催し、原寸大の高精細複製画のほか、岩松院本堂と同じ大きさの空間（間口6.3m、奥行5.5m、高さ5m）の5面（正面、左右、天井、床面）に映像を投影し、「鳳凰図」の中に入りこんだような鑑賞体験を提供する作品「3Dダイブシアター」を展示し、大きな話題を集めた。また展覧会鑑賞者の多くが実際に岩松院を訪れた。

○NAKED meets 北斎

アルステクネがデジタル化した高精細データを用い、株式会社ネイキッドと共同で2019年に制作した「富嶽三十六景」をテーマにした動画作品。今回は動画の左右にモチーフとなっている作品をあわせて投影する。約4分。

○大鳳凰図転生物語

NTT ArtTechnologyとアルステクネが「Digital×北斎」特別展の3Dダイブシアター用に制作した映像を2Dに再編集して上映。約3分。